

平成 28 年度 国立大雪青少年交流の家教育事業  
「ゆーすぴあ・ボランティア塾」事業報告書

1 事業実施の背景

大雪青少年交流の家では、これまでもボランティアの養成・活用を進めてきたが、「新しい公共」型のボランティア活動（参画型ボランティア）がより強く求められており、これまでのボランティア養成よりも踏み込んで、ボランティアが主体的に事業を企画し参画することを想定したプログラムでの「ボランティア養成事業」が必要となってきた。

交流の家のボランティアは、各事業での参加・協力はあるものの、参加者が固定化しており、企画にまで主体的に参画できていない。このボランティア養成事業をボランティアの活動への意欲の高揚を進めるきっかけとしたい。

2 事業趣旨

- (1) ボランティア活動を行う上で必要な知識・技術について講義、実習をとおして習得する。
- (2) 青年が、様々な世代との関わりをとおして、人生を豊かに生き抜く力を身につける。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家

4 後援 北海道教育委員会 北海道小学校長会 北海道中学校長会 北海道高等学校長協会 上川管内教育委員会連合会

5 事業概要

- ・期日 平成 28 年 5 月 28 日(土)～29 日(日) (1泊2日)
- ・会場 国立大雪青少年交流の家
- ・対象 高校生以上でボランティア活動に興味関心のある方
- ・定員 20 名
- ・講師 国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター研究員 青木 康太郎氏  
独立行政法人国立青少年教育振興機構  
子どもゆめ基金部国際・企画課国際企画係長 谷崎 誠氏  
おはなし会あいあい  
大雪消防組合美瑛消防署員  
国立大雪青少年交流の家所長 阿部 豊  
国立大雪青少年交流の家職員

6 目的の達成指標（アウトプット）

- (1) 参加者数 23 名
- (2) 参加者の満足度 78.3%

7 広報

- ・前年度ボランティア登録者
- ・富良野市社会教育ボランティア担当者
- ・上川管内各市町村教育委員会
- ・道内大学、短期大学
- ・上川管内高等学校

8 参加者人員・類型

参加者 23 名  
内訳：一般 7 名、大学生 15 名

## 9 事業日程・内容

### (1) 日程

	10:15	10:45	12:15	13:00	16:00	17:30	18:30	19:30	20:30	22:00	
第1日目	9:30～ 受付	開 会 式	テ ー リ ン グ オ リ エ ン	ボランティア活動 の意義	昼 食	子供理解とボランティア 活動の技術	体験活動の意義と 青少年教育	夕 食	青少年教育 施設の現状と 運営	青少年教育施 設におけるボラ ンティア活動	休 憩 浴
	7:15	7:30	9:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00			
第2日目	つ ど い	朝 食	安全管理	昼 食	青少年教育 施設における ボランティア 活動	子供理解と ボランティア 活動の技術	ま と め	閉 会 式	16:00 解散		

### (2) 概要・運営のポイント

今年度は、「学校教育との連携」及び「読書活動との関連」にポイント置いた科目の設定、並びに北海道における青少年教育の現状と課題について学びを深めるよう科目の設定を行った。

また、体験活動推進員養成事業としての位置付けもあることから、必要科目・時間数の確保も行った。

### (3) 各プログラム内容

体験活動の意義と青少年教育 (講義)	・ 青少年教育の課題や発達段階に応じた体験活動の必要性を理解した。 【国立大雪青少年交流の家所長 阿部 豊】
ボランティア活動の意義 (講義)	・ ボランティア活動の意義や、ボランティア活動における心構えや留意点について学んだ。 【国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター研究員 青木 康太郎氏】
安全管理 (講義・演習)	・ AED や応急手当など救命救急に必要な知識、技術を学んだ。 * 終了後、普通救命講習修了書が発行されます。 【大雪消防組合美瑛消防署員】
青少年教育施設の現状と運営 (講義)	・ 青少年教育施設の教育機能や役割、運営について学んだ。 【独立行政法人国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金部国際・企画課国際企画係長 谷崎 誠氏】
青少年教育施設におけるボランティア活動 (説明)	・ ボランティア登録制度や大雪年間事業について説明し理解した。 ・ 青少年教育施設におけるボランティア活動の実践事例を理解した。 【国立大雪青少年交流の家 ボランティアコーディネーター】 【国立大雪青少年交流の家 登録ボランティア (先輩ボランティア)】
子供理解とボランティア活動の技術 (講義・演習)	・ 体験活動の実践的技術として「絵本の読聞かせ」や本の種類について知識・技術等を学んだ。 【おはなし会あいあい】 【国立大雪青少年交流の家職員】



## 10 参加者アンケートから

### (1) 総合的満足度

- ・満足 18 78.3%
- ・やや満足 5 21.7%

#### (参加者の声)

- 内容の濃い研修でよかったです。
- ボランティアについて様々な人から幅広い話を聞いて良かった。
- 人との意見交流などができてとてもよいものだった。
- ボランティアについて考えさせられる濃い二日間でした。

### (2) 事業のプログラム

- ・満足 15 65.2%
- ・やや満足 8 34.8%

#### (参加者の声)

- とても楽しいものが多かった。
- 周りの知人にボランティアに興味がある人がいるので紹介したいと感じた。

### (3) 事業運営

- ・満足 18 78.3%
- ・やや満足 5 21.7%

#### (参加者の声)

- とても丁寧な対応でした。
- 丁寧な運営をされていて勉強になりました。

### (4) その他参加者の声

- 施設ボランティアの意義、やりがいがよくわかりました。
- 漠然としていたボランティア像が、少しだけ具体的なものになったと思います。
- ボランティアの始まりはどんな理由でも構わないこと。目的意識を自覚して、行動することの大切さを知りました。
- 子供に対する向き合い方以外にも、個人情報や安全・体調管理には注意深く行動しなければならぬなど、それぞれの研修のコマで意見交流していきながら学びを深めていくことができました。
- AEDの使い方など教えて頂き、復習になり勉強になりました。また、他の人の意見を聞き、自分の考えを見直す機会となった。



## 1 1 事業の成果

### (1) 事業背景の達成度

「新しい公共型」のボランティア活動を行っていくため、カリキュラムに沿って実施した目的については、概ね達成できた。

法人ボランティアとしてこれから当事者意識をもちながら、主体的に活動していくことが重要であることから、本事業のアンケートのとおり意欲を高めていくことができ、次につなぐための機会を作ることができたことは事業の成果と言える。

## 1 2 事業の課題

### (1) 事業の趣旨

- ・今回の参加者が、法人ボランティアに登録し今後どのような活躍をし、学びを発揮していくのかについて考えていく必要がある。

### (2) 広報等

- ・新しい法人ボランティア登録者を確保していくことを考えた時に、次年度は新入生ガイダンスなどの機会を利用し参加者確保に努めていく必要があると考えている。

### (3) 事業プログラムの展開

- ・プログラムについては、アンケートからあるように一定の評価があったと考える。